

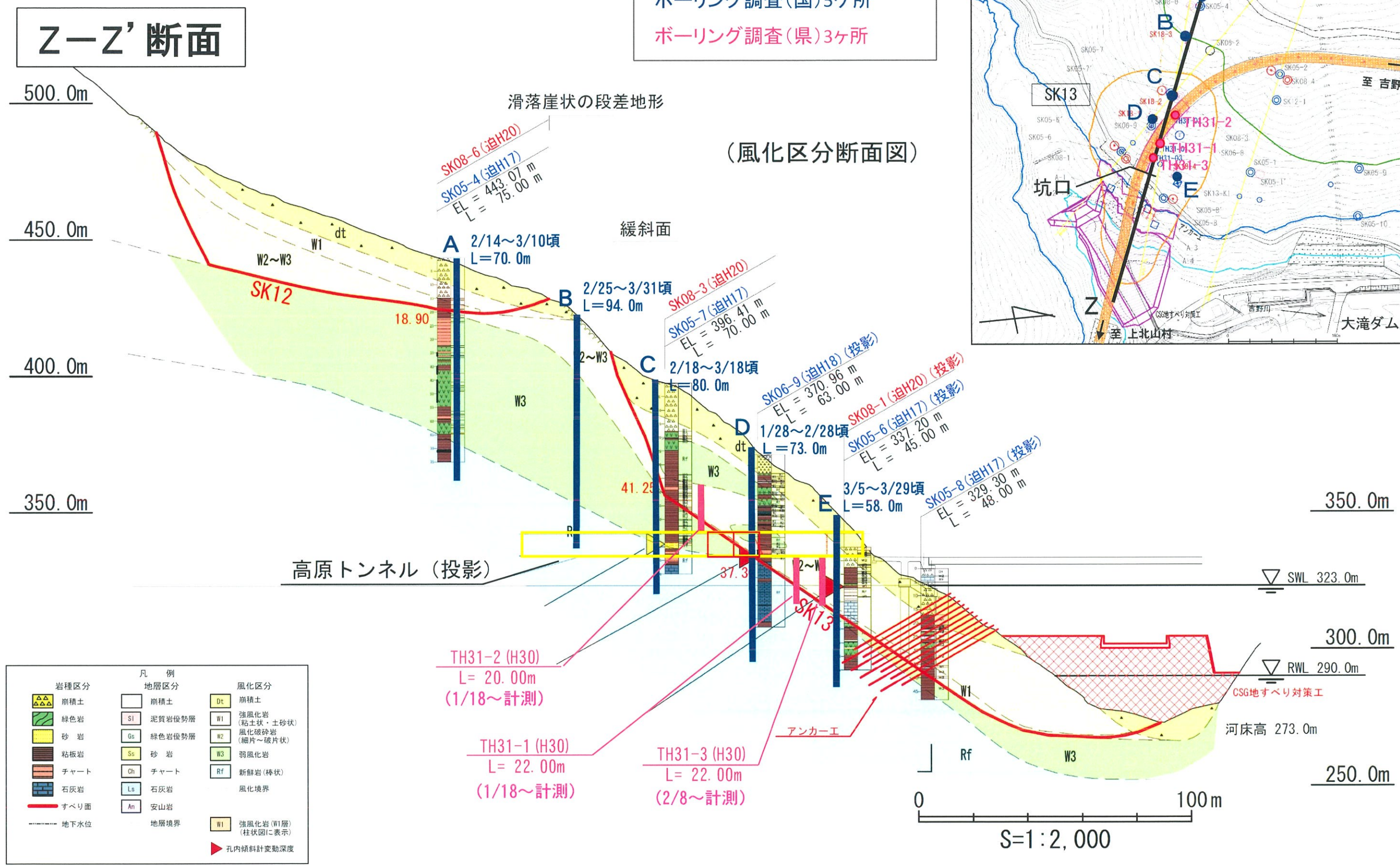
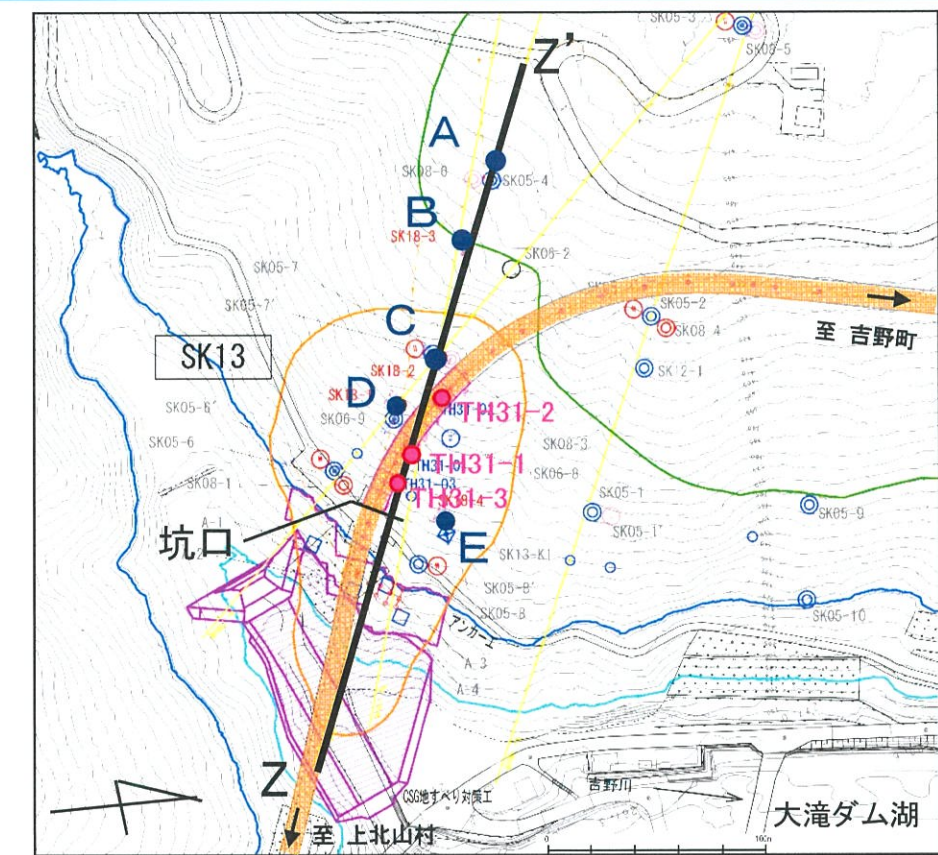
# (1) 調査状況

# 1-1 周辺地盤の調査

(1) 調査状況

## 【ボーリング調査状況】

【凡例】  
 ボーリング調査(国)5ヶ所  
 ボーリング調査(県)3ヶ所



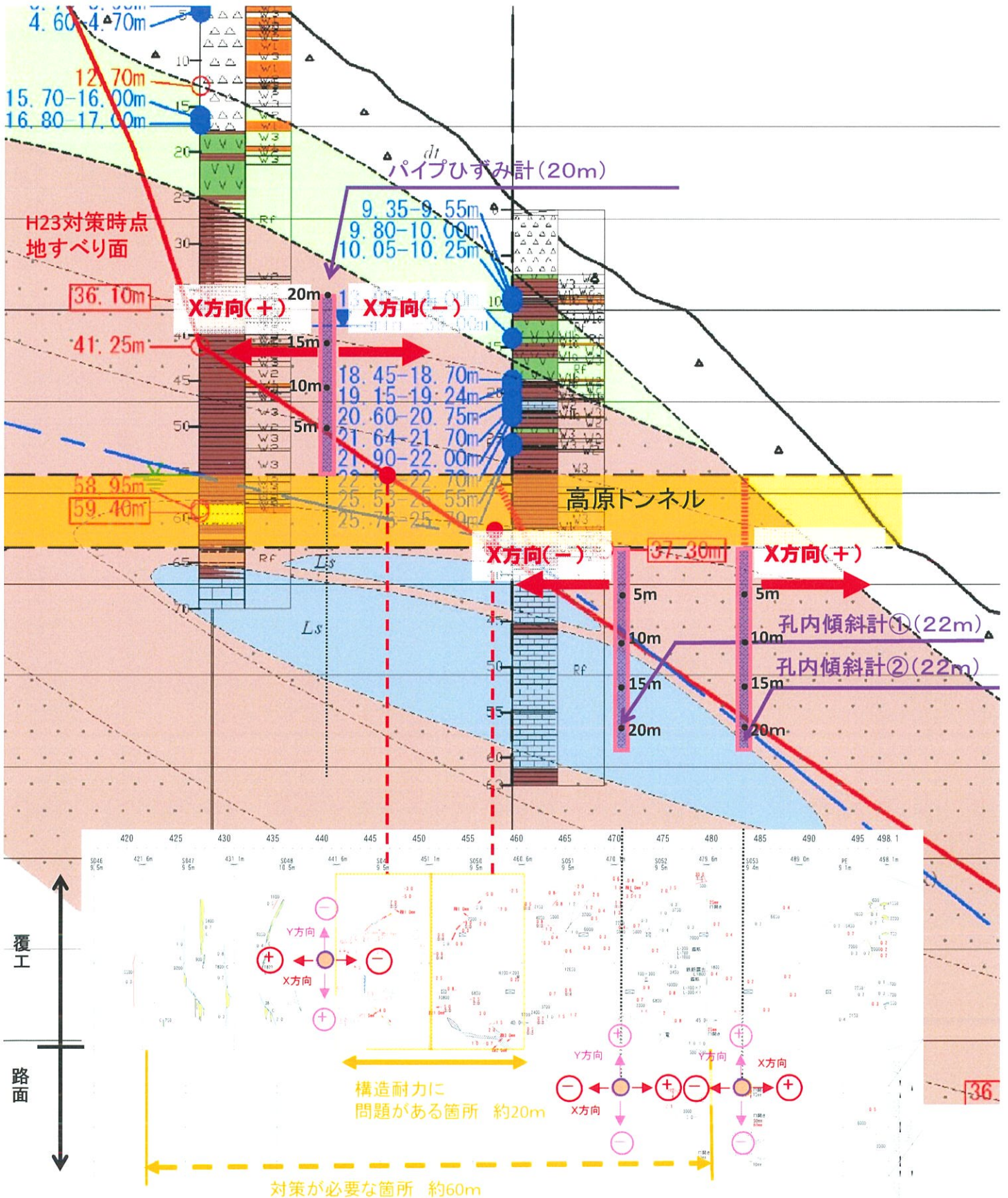
岩種区分	凡例	地層区分	風化区分
崩積土	崩積土	崩積土	崩積土
緑色岩	泥質岩優勢層	W1	強風化岩 (粘土状・土砂状)
砂岩	緑色岩優勢層	W2	風化破砕岩 (細片~破片状)
粘板岩	Ss 砂岩	W3	弱風化岩
チャート	Ch チャート	Rf	新鮮岩 (棒状)
石灰岩	Ls 石灰岩		風化境界
すべり面	An 安山岩		W1 強風化岩 (W1層) (柱状図に表示)
地下水位	地層境界		▶ 孔内傾斜計変動深度

観測孔名 自動観測計器  
 観測孔名 手動観測計器

「第2回大滝ダム貯水斜面对策検討委員会資料(H19.2)」に県が加筆



## (1) 計測器位置図

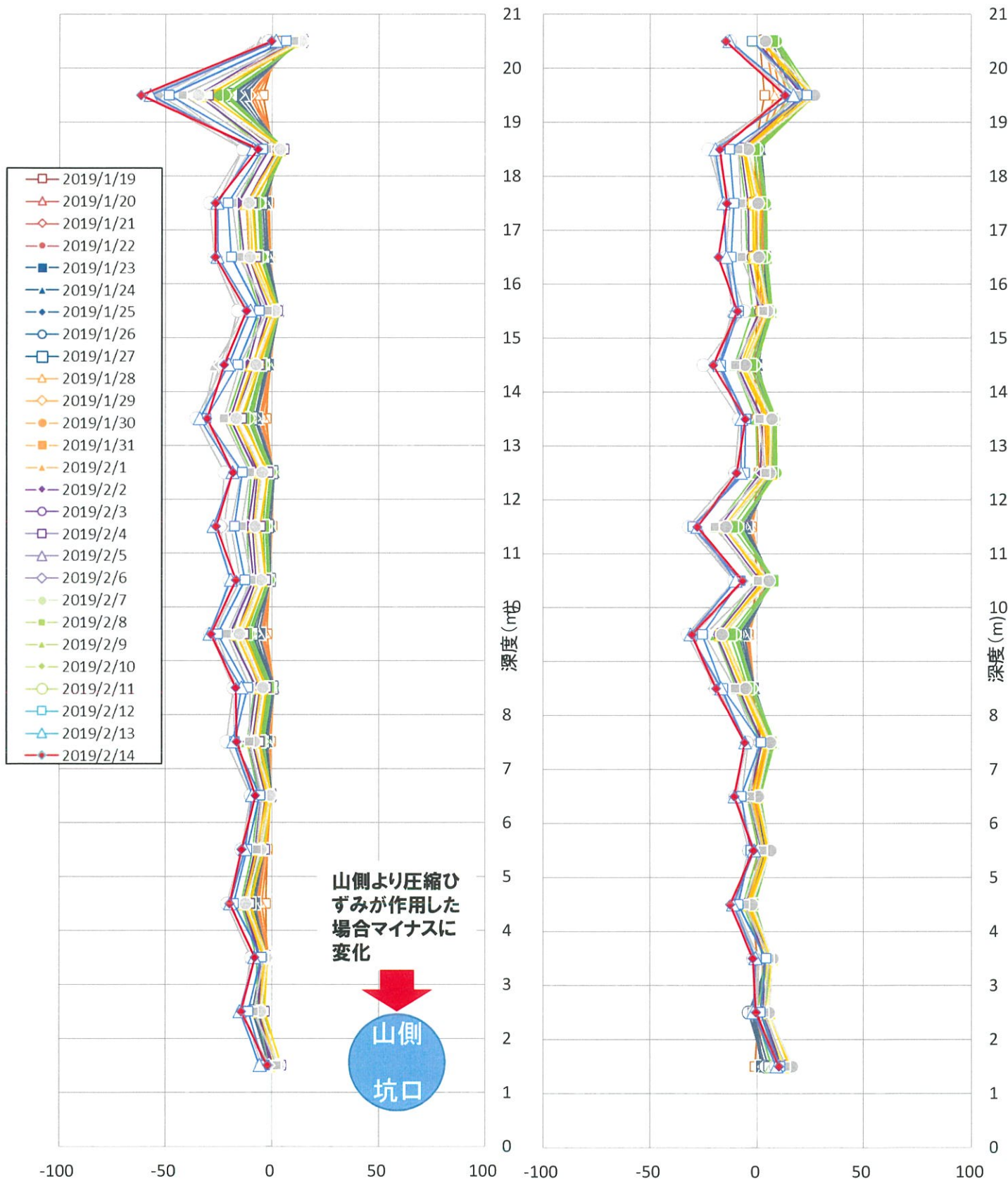




## (2) パイプひずみ計

X方向

Y方向



ひずみ量(μ) X方向(坑口側に応カ-

ひずみ量(μ) Y方向(坑口に向いて左側-)

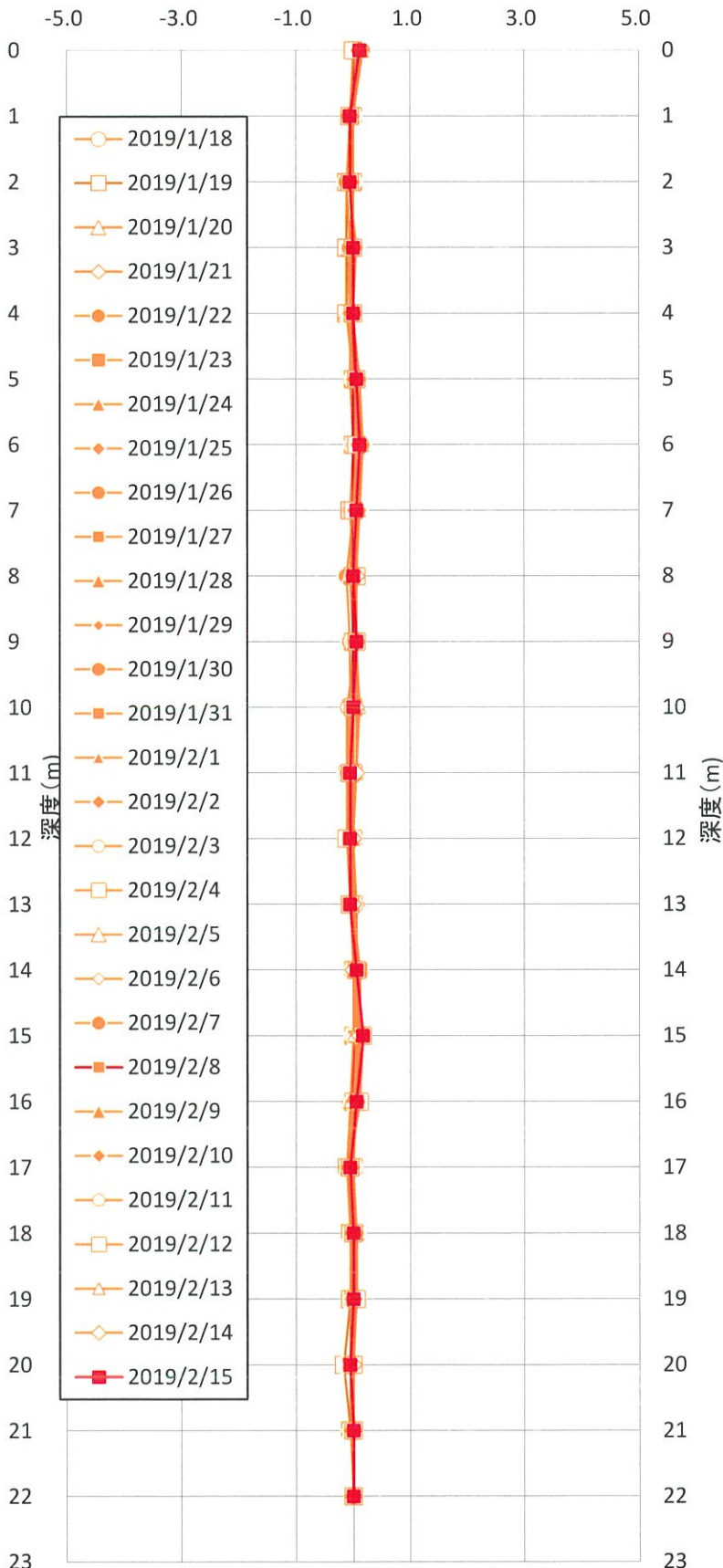
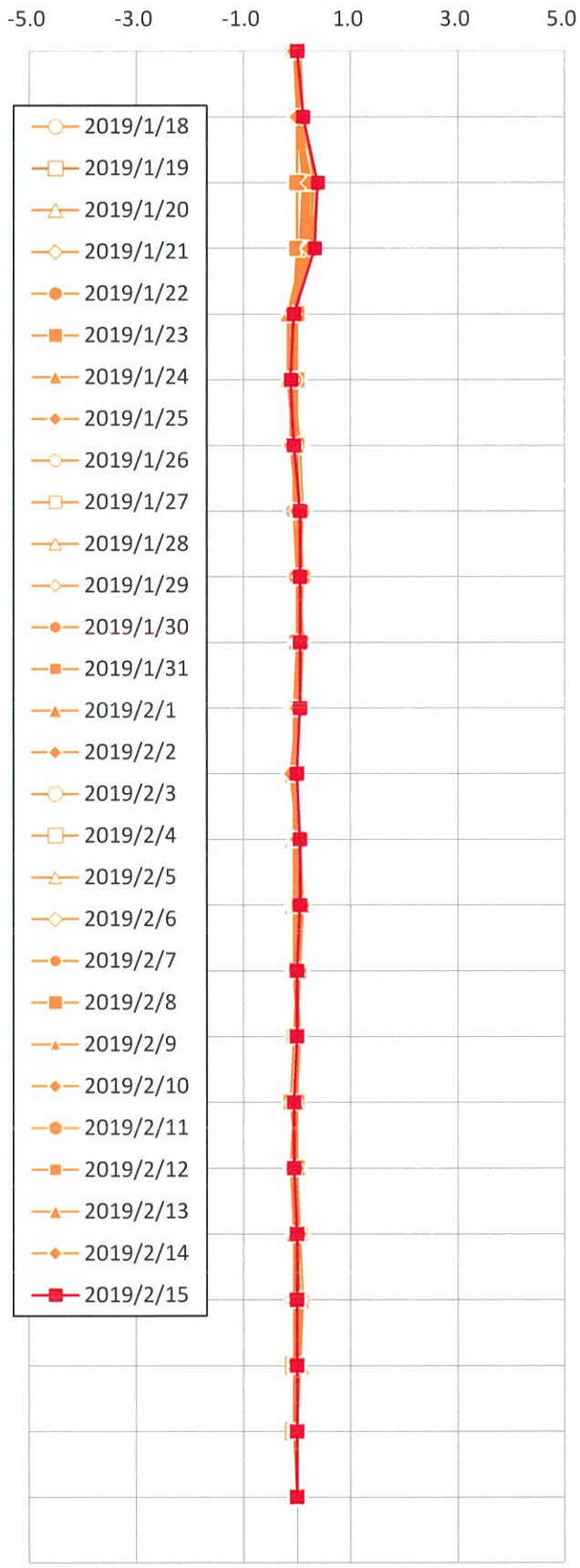
## (3) 孔内傾斜計①

### X方向

### Y方向

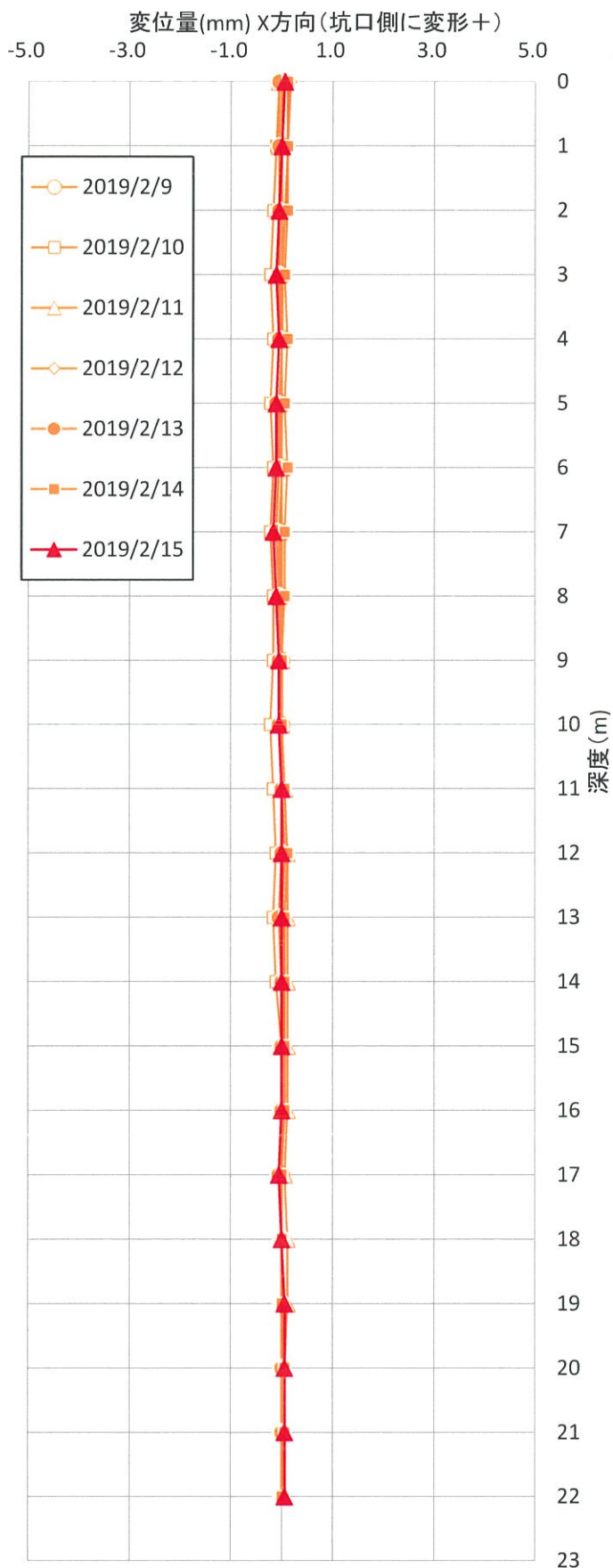
変位量(mm) X方向(坑口側に変形+)

変位量(mm) Y方向(坑口に向かって左側に変形+)

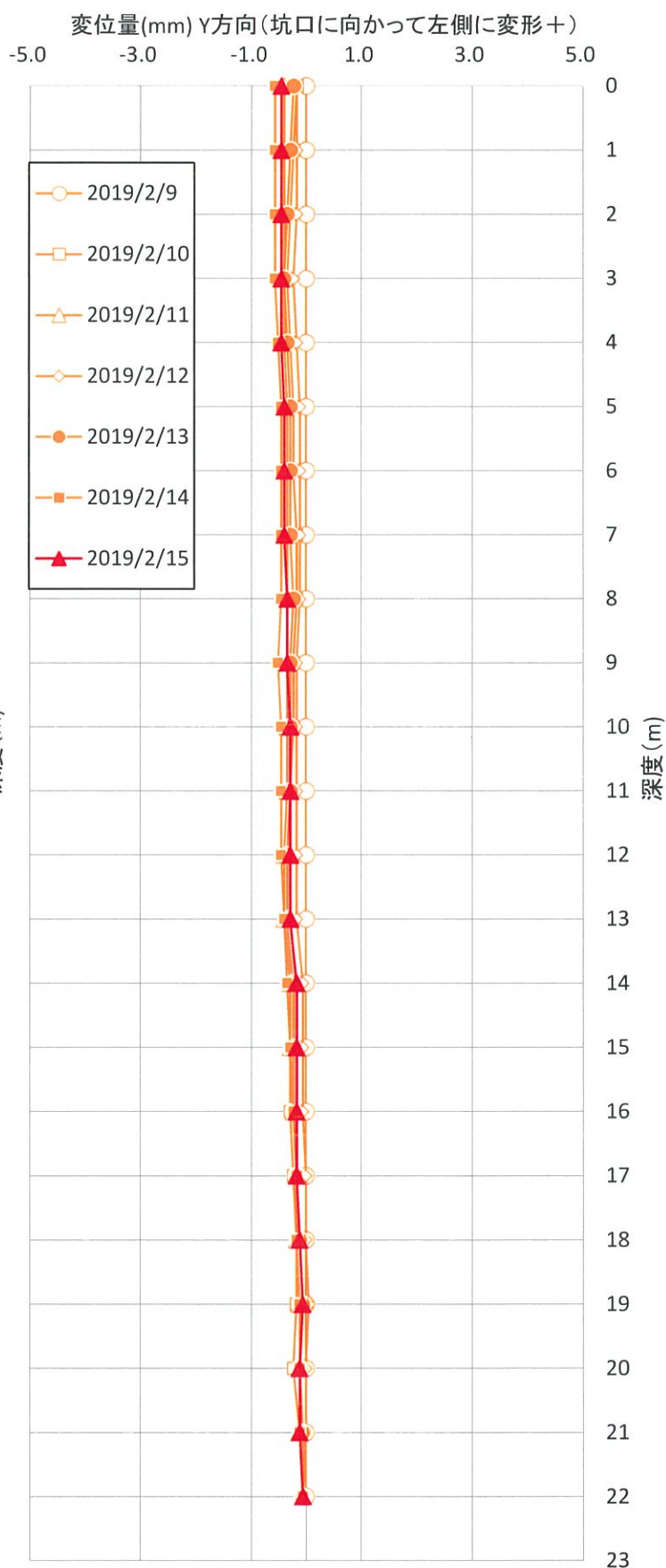


## (4) 孔内傾斜計②

### X方向



### Y方向





【亀裂計測】

トンネル内の損傷状況によりレベルを分類し、レベル1に該当し、最も進行性の高いクラック4箇所は、平成30年12月27日より、それ以外は平成31年1月13日より計測

【レベル1】 構造耐力に問題がある (S49, S50)

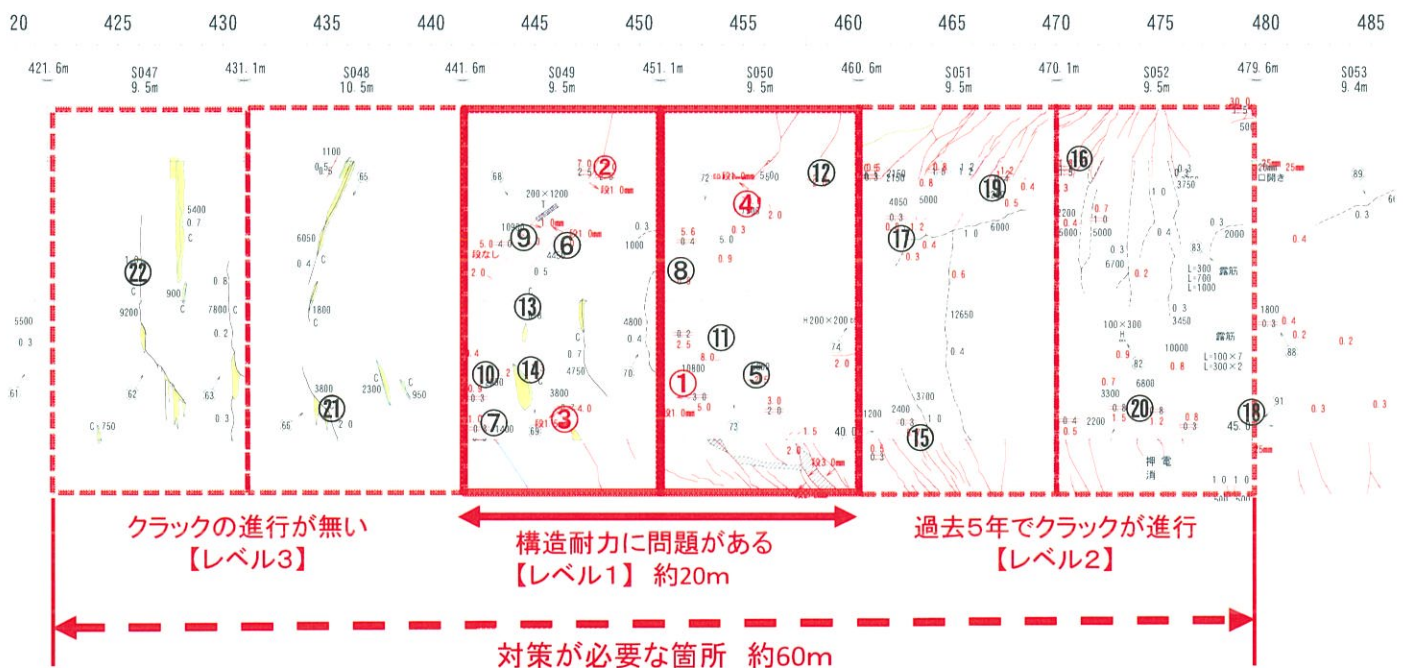
- (1) 最も進行性の高いクラック → 4箇所
  - ① : 直近1ヶ月で0.5mm進行
  - ② : 5年で4.5mm進行
  - ③ : 5年で3.3mm進行
  - ④ : 5年で4.0mm進行
- (2) (1)以外のクラック → 10箇所

【レベル2】 過去5年でクラックが進行 (S51, S52)

→ 各スパン内で最も進行性の高い3箇所 (6箇所)

【レベル3】 過去5年でクラックの進行が無い (S47, S48)

→ 各スパン内で最もクラック幅が大きい1箇所 (2箇所)





# 1-2 トンネル内の調査

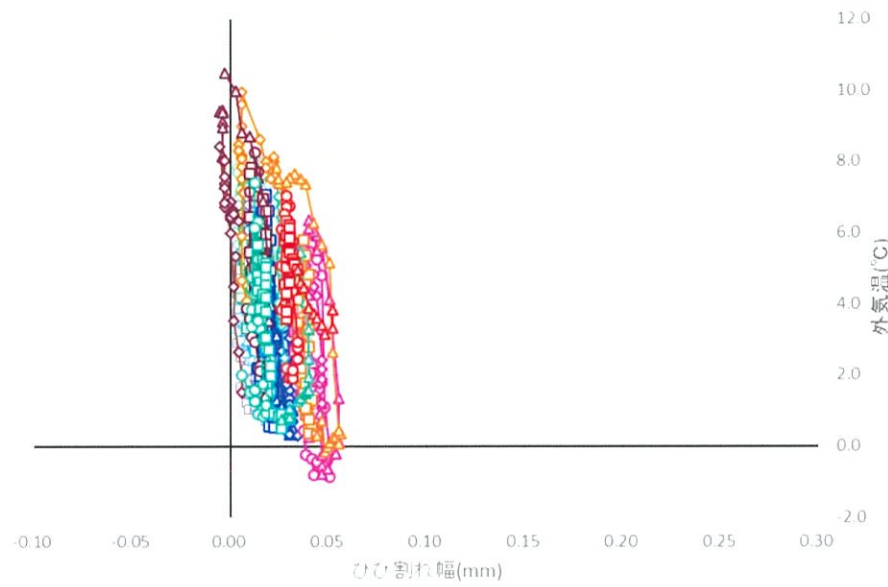
(1) 調査状況

## 【亀裂変位計の結果】 ひび割れ幅と外気温の関係

12/27 ~ 12/30	12/31 ~ 1/3	1/4 ~ 1/7	1/8 ~ 1/11
1/12 ~ 1/15	1/16 ~ 1/19	1/20 ~ 1/23	1/24 ~ 1/27
1/28 ~ 1/31	2/1 ~ 2/4	2/5 ~ 2/8	2/9 ~ 2/12
2/13 ~ 2/15			

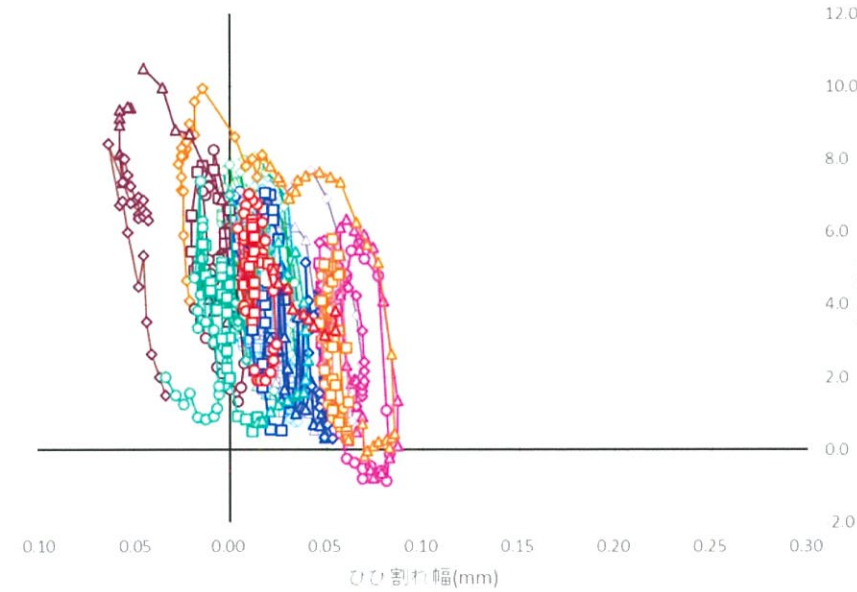
○	1日目	□	2日目	△	3日目	◇	4日目
---	-----	---	-----	---	-----	---	-----

1/13~2/15 (34日間)



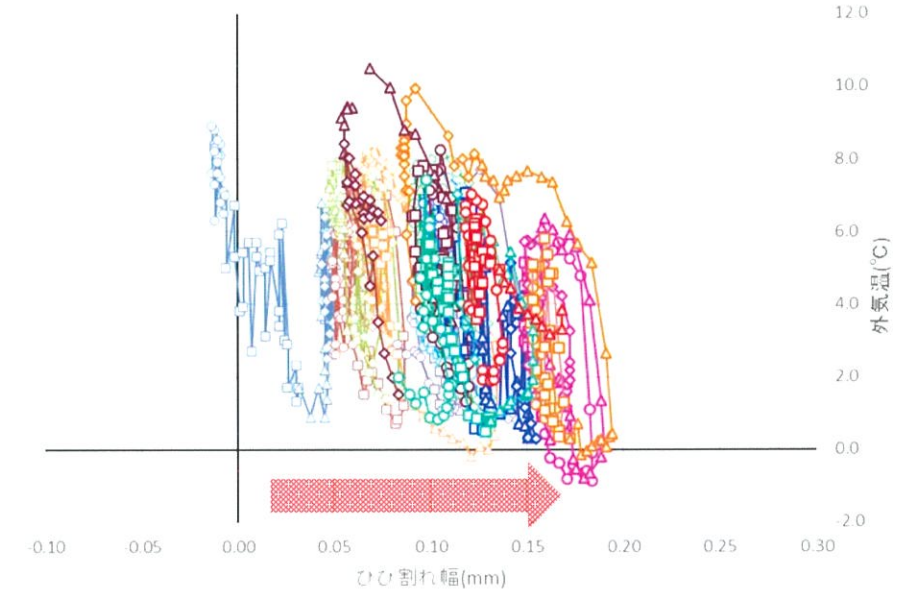
S047 計測番号22

1/13~2/15 (34日間)



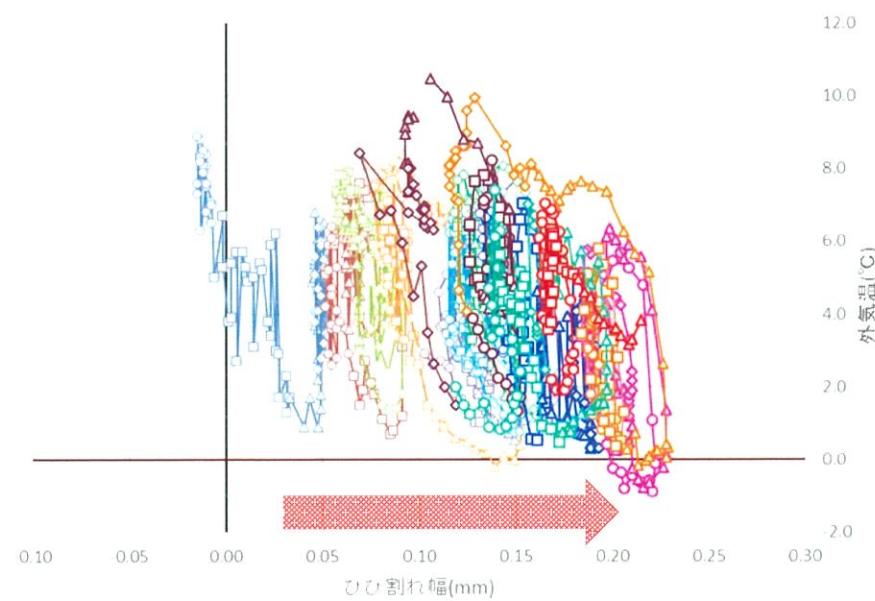
S048 計測番号21

12/27~2/15 (51日間)



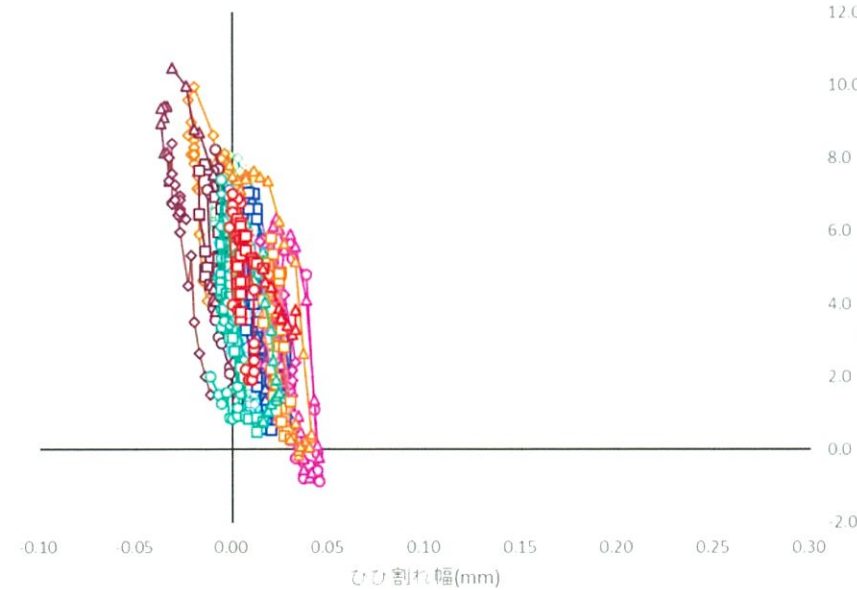
S049 計測番号3

12/27~2/15 (51日間)



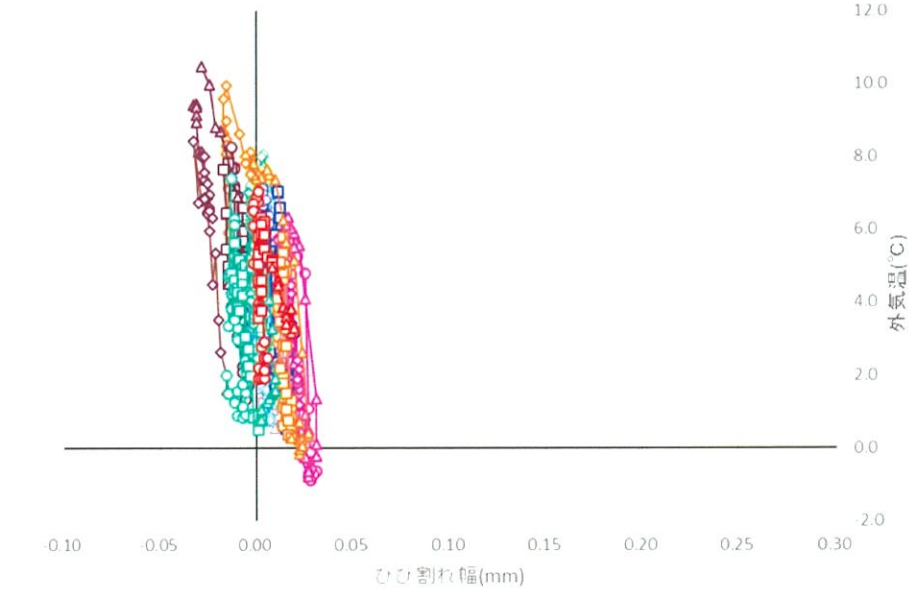
S050 計測番号1

1/13~2/15 (34日間)



S051 計測番号15

1/13~2/15 (34日間)



S052 計測番号8